

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「ゆっくり、楽しく過ごしましょう」を全職員が日々確認し合い、業務にあたり実践している。	法人理念と事業所独自の理念はホール入り口の目に付きやすい所に掲示し、来訪者に伝え、職員は共有と実践に努めている。利用者のペースに合わせゆっくりと待つ支援を心掛け、利用者との信頼関係を築くことでゆったり楽しい日々を過ごしていただくように、日々、確認しあいながら支援に当たっている。家族に対しては入居時にケアの取り組み姿勢について説明している。職員は事業所理念の持つ意味を良く理解し、ゆっくり優しく寄り添うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にあり、定期的なボランティアの受け入れが難しくなっているが、地域に散歩に出かけることで地域の人、子供たちとも関わりを持っている。	開設以来区費を納め地域に開かれ密着したホームとして活動しているが、一昨年の春以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け殆どの地域行事が取りやめになり残念な状況が続いている。そのような中、地域住民の方とは散歩のとき親しく挨拶を交わし野菜等の差し入れも頂いている。合わせて法人内の保育園の園児とも散歩の時に交流を続けている。また、10月には専門学校生の職場体験が実施され、利用者とのコミュニケーション研修を中心に交流をしている。ボランティアの受け入れの中止が続く中、職員がオカリナ演奏等を行い利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や地域総括支援センターにて、介護者の集いや相談会に出席し、理解や啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にあり、運営推進会議を事業所内で行うことが難しく、書面での報告となっていることもあるが、意見、質問などいただき返答している。	例年、家族代表、区長、地域代表、地域消防団、民生委員、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回奇数月に運営推進会議を開催していたが、新型コロナの影響が長引き、現在、書面での開催となっている。利用状況、活動状況、活動予定、事故・ヒヤリハット報告、総括報告等を書面でお知らせし、返信様封筒に「皆様の声」という用紙を同封し意見・助言を頂き、サービスの向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長野市、保健所からのコロナ感染症対策についての内容を細目に確認している。介護高齢者活動支援課の職員、包括、あんしん相談員、民生委員、地域代表の方々に取り組みを伝えながらご意見を聞くと共に協力をいただいている。	市高齢者活躍支援課とは新型コロナの感染対策等、様々な事柄について相談し連携を取っている。地域包括支援センターとも利用者状況、入居状況について連携を取り合っている。あんしん(介護)相談員の来訪が新型コロナの影響を受け中止となっているが再開されるのを心待ちにしている利用者もいるという。介護認定更新調査は調査員が来訪し職員が対応して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待について法人研修で学んでいる。また身体拘束委員会に職員が出席し、ケア会議にて話し合い、職員全員で周知している。	新型コロナ禍の状況が続いているが「ゆっくり待つ」支援に心掛け、利用者との良好な関係を作り上げ拘束の無いケアに取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠している。転倒危惧のある利用者があり夜間のみ足元センサーを使用している。隣接の老人保健施設で2ヶ月に1回開かれる身体拘束適正化委員会に職員が出席し、セクション会議の席上報告が行われている。合わせて年1回、法人内で行われる身体拘束のウェブ研修会に参加し拘束に対する意識を高め支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法人研修に参加し、日常業務の中で虐待とみなされることが起きていないか、職員間で互いに見逃すことのないようにし、又ケア会議の中で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	月一回のセクション会議にて、議題として学ぶ機会を設けている。また、必要に応じ管理者、職員、関係者と話し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時不安のない様説明し、理解、納得をいただいている。ご家族の気持ちも聞き、寄り添う対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会や行事がコロナ禍でスムーズにできない状況にはあるが、電話、文書などでご意見、ご希望を聞かせていただき、反映出来るよう取り組んでいる。	新型コロナ禍の状況が長引き家族の面会は難しい状況が続いているが、感染状況が落ち着いてきた時から管理者が判断し全家族に連絡を取り事前に予約をしていただき玄関先にて間隔を取り15分以内の面会を行っている。そのような状況下、家族とは電話できめ細かく連携を図ると共に2ヶ月に1回発行されるお便り「コスモス通信」でホームでの様子をお知らせしている。また、誕生日会の様子を写真で家族にお届けし喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のセクション会議にて、職員からの意見や提案を皆で検討し、ホーム長会議で発表し反映させる機会を得ている。また、年に二回の自己考課・評価があり、それにつなげて個人面談をしている。	月1回、月末の19時より夜勤者を除いた全職員が出席しセクション会議を開催している。ホーム長会議の報告、事故・ヒヤリハット報告、センサー使用の有無についての話し合い、カンファレンス、その他の意見交換等を行い職員間の意思統一を図っている。また、人事考課制度があり年間の自己目標に対し2回自己評価を行い管理者による個人面談が行われ、振り返りとモチベーションアップに繋げている。合わせて年1回、職員のストレスチェックが行われメンタルケアでも配慮がされるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シート、自己評価が年に二回あり、実績や努力を代表者に伝える事が出来ている。また、必要に応じ面談をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修には全職員が出席できるようにしている。コロナ禍で、外部研修がなかなか行うことができなくなっているが、リモートでの研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で機会は少なくなっているが、北信地区ネットワークに加入しており、機会を利用し、研修会や取り組みなどの交流がある。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時より、困っている事、不安に思っている事等、本人の気持ちを聴き、安心できる居場所作りに努めながら、職員間で情報を共有し、安心していただける関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所契約時より、ご家族の困りごとや不安、ご希望を聴き、ホームで出来ることを伝え、ご家族の協力をいただきながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会時に本人やご家族が望む暮らしを聴き、必要な情報を聴取しながらご本人に合ったサービスを見極め提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員の生活の場であるという意識を持って、本人の希望を聞きながら食事作りをしたり、日々の生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で、面会がほぼできない状況の中で、生活記録などを通して様子を伝え、必要があれば電話、文書で確認を取っている。又、施設サービス計画書を返送時にもご意見、感想などいただき、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会が難しい状況にはあるが、手紙や電話などで関係が継続できるよう支援している。又、外出についてはコロナ感染症状況に応じ対応していきたい。	新型コロナウイルスが続き、現在、友人や知人との面会は自粛となっている。そのような中、年賀状や電話で交流がされている利用者も数名いる。理美容については2ヶ月に1回、顔なじみとなった訪問美容師の来訪で対応し、新型コロナウイルスの感染拡大時には安全を考慮し管理者がカットを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーションを通し、コミュニケーションを 図っている。新聞読みや雑談を通し共通の 話題を提供したり、席替えや入浴順序など の工夫で楽しく過ごしていただける様に している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍で直接お会いしたり、お立ち寄りの 声かけは難しいが、退所後も電話や、住み 替え先の職員に様子を伺うなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日々の関わりの中で本人の望んでいる事 や、気持ちを把握し、本人や職員と検討し実 現できるよう努めている。又、困難な場合でも 可能な限り、本人の希望に近づくことがで きるよう検討し努めている。	言葉での問い掛けに合わせジェスチャー、筆談も交え ながら全利用者の思いを把握するように取り組んでい る。「ゆっくり待つ」支援に心掛けている。現在、殆どの 利用者は穏やかに過ごされているが気になる事柄に ついては声掛けを行い、タブレットのケース記録に纏 め、申し送り時に確認し意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所前に利用されていた施設などからの情 報提供や、ご家族との面談による情報入 手、また日常の会話の中からも情報収集 し、職員全員に説明し共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	申し送り、朝礼、終礼にて職員が把握してい る。変化があれば適宜その場で話し合い対 応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望を伺い、本人の現状と 合わせた介護計画を作成している。課題に ついてはケア会議で各自意見を出し合い検 討している。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室管理、生活記 録の作成、不足物の補充等を行っている。職員も自分 の担当利用者に対しては思い入れを持って接してい る。カンファレンスの席上で意見を出し合いモニタリ ングを行い、家族の希望も加味しながらケアマネ ジャーがプランの作成を行っている。入居時は事前 にお聞きした情報を基に1ヶ月の暫定プランを作成し、様 子を見てその後3ヶ月のプランに繋げ状態に変化が見 られた時には随時の見直しを行い、利用者一人ひとり に合ったケアに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、記録として個々の様子や言動の事 実、気づいた事を記録し、申し送りにて情報 共有し、見直しが必要な場合には話し合い をして実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健の相談員や、理学療法士、栄養 士などに意見をもらい、取り組んでいる。		

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民から生産した野菜を届けていただいている。ホームで育てている野菜もあり、会話につながり、楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をとり、訪問診療、24時間対応をしているが、本人や家族の希望ある時は、主治医に紹介状を書いてもらい、通院にも付き添っている。	利用契約時に医療機関についての希望を聞き、ホームとしての取り組みを説明している。現在、全利用者が法人内のクリニックの医師による月2回の往診で対応している。合わせて週1回訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理と合わせ医師との連携を図り、24時間対応の医療体制が取られている。歯科については必要に応じ法人指定の歯科医の往診と受診で対応している。また、月1回、隣接の老人保健施設の歯科衛生士の来訪があり、口の健康にも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅管理指導料を基に毎日の健康チェックを行い、利用者の状態を把握しクリニック、訪問看護、薬剤師と相談しながら診察を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護情報を提出し、経過はご家族、又は病院のソーシャルワーカーより聞き、連携室と連絡をとり合い、退院後の支援について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針について説明している。重度化の状態によりその都度、ご家族と話し合いを行い、ホームで出来ること、出来ないことを説明し、同意をいただいている。	重度化、終末期に対する指針があり利用契約時に説明している。食事を摂ることや入浴が難しくなり終末期を迎えた時には家族、医師、看護師、ホームで話し合い、家族の意向を確認の上、医師の指示の下、看取り同意書にサインを頂き支援に取り組んでいる。そのような中、医療行為が必要となりグループホームでの支援が難しくなった場合は隣接の老人保健施設への住み替えも含めた支援に取り組んでいる。また、現管理者が着任してから2名の看取りを行い、家族の希望に沿った支援ができたことから感謝の言葉を頂いたという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の老健の救命救急内部研修で学んでいる。またホーム独自でも、セクション会議の場で皆で学んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回以上、日中と夜間に分けて、それぞれ火災、水害、地震を想定し、防災訓練を実施している。また、推進会議にて地域の消防団員の参加もあり、意見をいただいている。災害に備え、お米、水等備蓄もしている。	7月には水害想定避難訓練を行い、1階の利用者全員が階段を使って2階へ移動しての垂直避難訓練を実施した。11月には消防署員立ち合いで防火管理者の指示の下、日中想定で出火場所を特定しての消火訓練と利用者全員を玄関先まで移動しての避難訓練を予定している。合わせて通報訓練、緊急連絡網の確認訓練も実施予定である。備蓄については「水」「お米」が3日分準備されている。その他の備蓄については隣接の老人保健施設に備えられている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室時は必ずノックし、本人の了解を得てから入室している。尊厳を守り、ゆっくり丁寧な言葉がけをしている。	「ゆっくり待つ」支援を心掛け、利用者との信頼関係を築くように努め、優しく声掛けを行い慌てさせないようにしている。トイレ介助の際にはさりげなくお誘いし、他の人にはわからないようにしている。呼び掛けは尊敬の念を込め苗字に「さん」付けでお呼びしている。また、入室の際にはノックと声掛けを忘れないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員からの声がけを多くし、本人の思いや望みを話しやすい環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課や一日の流れはあるが、利用者の気持ちややりたい事を優先し、希望に沿った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の声がけをし、身だしなみができている。訪問美容師により、本人の希望のヘアカットしてもらっている。爪切りも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で外出ができない状況にあるので、一日の食事を楽しく満足していただけるよう季節の食材なども取り入れている。	全利用者が自分で食事が出来る状況である。献立は法人の管理栄養士が立てた1週間分の献立をアレンジしてお出ししている。外出が難しい状況の中、季節に合わせた行事食に力を入れ楽しい食事の時間を過ごしていただくようにしている。お彼岸には「おはぎ」等を出し、ひな祭りには「チラシ寿司」、敬老の日には「お祝い膳に茶碗蒸し」等を楽しんでいる。また、おやつには「バナナホットケーキ」等を作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立に基づいた、バランスの良い食事を提供できている。状態に応じた食形態の食事提供もできている。飲み物は好みの物を聞き、提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導を受け、毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の状態、義歯の状態を把握し、清潔保持できるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の利用者の様子や時間で、適切なトイレ誘導や声かけで、排泄で不快を感じることのないよう支援している。	自立の方が三分の一弱、一部介助の方が三分の二強という状況である。起床時、おやつ時、食事前、就寝前など定時に声掛け、また、排泄チェック表を参考に誘導し、できるだけトイレで排泄できるようにしている。排便については3日間無い場合はコントロールを行い、牛乳、お茶、コーヒー、スポーツドリンク等で1日1,500cc以上の水分摂取を目標に排便促進に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康チェック表で個々の排便の有無を確認し、水分補給や体操をしている。また主治医に相談し、内服薬にて排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回で入浴日も決まっているが、希望があれば、他の階での入浴も可能となっている。入浴剤や季節を感じてもらえる物を入れている。歌を唄うなど入浴を楽しんでいる。	基本的に週2回入浴を行い、夏場はプラスでシャワー浴での対応も行っている。入浴拒否の方が誘い方の工夫をし入っていただくようにしている。広い浴室で、気の合う利用者同士2名で入浴されるケースもあり、歌を歌いながら入浴を楽しまれているという。入浴剤を使用したり、「菖蒲湯」「ゆず湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に参加の声かけをしているが、自由に休息はとっていただき、体調などに合わせ室温・照明など居室環境の工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の説明書を確認し、体調管理をしている。一人一人の内服している薬の内容を理解し、内服を確認すると共に体調管理をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな食べ物は何か、何をしたいか等、日々の会話や表情から感じ取ったりしながら楽しみごとを探って、満足感を得られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせて、外気浴、地域への散歩に出かけている。季節を感じられるよう、可能であれば、車を借りてのドライブも計画している。	外出時、手引き歩行の方が四分一強、歩行器使用の方が半数弱、車いす使用の方が三分の一弱という状況である。天気の良い日には敷地内を散歩したり、近くの公園まで散歩している。また、平日の人出の少ない時を選び感染対策を取った上でドライブを兼ね松代の農業大学校まで季節のお花見に出かけたり、秋には川中島古戦場まで紅葉見物に出掛け外の雰囲気を楽しんでいる。	

グループホームコスモス長野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出が難しい為、本人の欲しい物、必要な物はご家族にお願いしたり、職員が代わりに買ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と話し合い、手紙や電話の取次ぎ等、希望に沿った支援をしている。行事の様子の写真を家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔な環境に努めている。室温・湿度・換気に注意し、快適に過ごせるよう、冷暖房にて調節している。季節に合った飾りつけをしたり、花を植えたりと、季節を感じてもらっている。外出時の写真を貼るなどしている。	ホーム南側には家庭菜園用の畑があり野菜の栽培を楽しんでいる。玄関を入るとホールに向けホーム内全体が季節に合わせた飾り付けがされており、現在はハロウィンの飾りが施され、季節感を味わえるように演出されている。また、壁には利用者のぬり絵等の作品や生活の様子を映した写真が飾られ、ホームでの暮らしぶりを窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人が思い思いに過ごしている。会話などから笑い声も聞かれている。自由に休憩したり利用者同士で相談したりと笑顔や笑い声も聞かれている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の馴染みの物を置いてもらっている。本人や家族と相談し、希望に沿っている。居室入り口には季節に合った飾りつけをしている。	陽当たりの良い各居室には新型コロナ感染対策のため定期的に窓を開け空気の入替えが行われている。入り口ドアには毎月付け替えられる職員手作りの「折り紙アート」が飾られている。十分な広さが確保された居室には洗面台と大きなクローゼットが設置され暮らし易い造りとなっている。家族と相談の上、イス、テーブル、テレビ等が持ち込まれ、家族の写真や自分の作品等に囲まれ思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者同士の出来る事、分かる事を思いやる気持ちを大切にし、安全な生活への自立支援に努めている。		